

ムシ歯の治療 【C2の場合】

「歯の健康教室」は、スマートフォンでもご覧いただけます。



エナメル質や歯の二層目や象牙質まで進行している、穴のあいた状態です。

軽度の痛みや冷たいものがしみる程度の自覚症状であれば、必要に応じて麻酔を行ない、神経を残したままで、大きさに合った金属や白い詰め物をします。神経に近い部分まで進行している場合には、治療後しばらくして咬むと痛みがあったり、しみたりすることがありますが、時間とともに軽減してくれば異常はありません。

神経を残した治療で、まれに症状が重くて（＝進行が深くて）痛みが収まらない場合がありますが、その場合には神経を取る治療へと移行します。

ひとつの歯を複数回治療すると、基本的に歯はだんだん小さくなってしまいます。自覚症状がなく、詰め物・被せものの隙間などが無い場合には、古いからといってやり直す必要はないと思われませんが、ムシ歯は進行が進むにつれ、犠牲になる健康な歯の量も増えて治療回数も多くなるため、痛みやしみるなどの自覚症状が続いて気になるようであれば、早めに歯科医院を受診することをオススメします。

